

平成29年度事業計画書

〔 自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日 〕

公益財団法人 人工知能研究振興財団

人工知能は、第4次産業革命実現のキーテクノロジーであるとして、業種を問わず多くの企業において研究開発、実用化が積極的に進められており、政府においても、成長戦略の柱として、人工知能の革新的な研究とともに、ものづくり技術との融合等により、産業化、社会実装までの研究開発が戦略的に推進されているところである。

こうした中で、当財団においては、従来の研究助成事業とともに、昨年度から取り組んでいる大学、研究機関等とのネットワークを構築による「相談・指導事業」の推進などにより、人工知能の研究の振興及び利活用の促進に力を注いでいくこととしている。

本年度は、研究助成事業の一層の効果的実施の検討とともに、「相談・指導事業」の充実に努めることとする。

1. 人工知能の研究に対する助成（定款 第4条第1項第1号）

（1）研究助成金の交付

企業、教育・試験研究機関、その他団体等の人工知能等の研究者・研究グループ等において行われる「人工知能の研究」に対し、研究助成を行う。

助成研究の実施形態においては、企業や産学（官）による共同研究について、積極的に支援することとする。

① 研究対象分野

- ・ 人工知能（知能ロボット、インテリジェントシステム、機械翻訳、音声理解、画像理解、知的C A I等）に関する調査、研究及びその利用技術の開発
- ・ 人工知能関連技術（人工知能を活用した情報処理技術・情報通信技術等を含む。）の高度化に関する研究・開発

② 研究助成の公募・選考

人工知能等に関する助成研究を公募（受理期間：7月1日～9月30日）し、応募のあった研究について、当財団に設けられた審査委員会において採択研究の候補を選考する。

③ 研究助成対象者及び助成研究テーマの公表

理事会の委任により理事長が採択助成研究を決定し、11月下旬にプレス発表及びホームページにより公表する。

④ 人工知能研究助成金交付伝達式（人工知能研究発表講演会と併催）

12月上旬に開催予定の交付伝達式において、交付決定通知書を手交するとともに、採択された研究の目的・内容及び研究によって期待される成果等について、各研究者からの助成事業発表会を行う。

2. 人工知能に関する講演会・シンポジウム・セミナー等の開催 (定款 第4条第1項第2号)

(1) 人工知能研究発表・講演会及び人工知能研究成果発表会等の開催

人工知能及び人工知能関連技術の研究振興と助成研究の成果の普及活用を図るため、助成研究者による研究成果発表とともに、参加者と助成研究者等との交流会を開催する。

併せて、人工知能の最先端・最新技術、研究等についての「特別講演会」を開催する。

① 人工知能研究発表・講演会（併催：人工知能研究助成金交付伝達式）

参加者募集数 70人（開催回数 1回）

②人工知能研究成果発表会

開催回数 2回（9月、3月）

参加者募集数 120人

(2) 講演会・シンポジウム・セミナー等の開催

人工知能及び人工知能関連技術に関する基盤・応用・実現技術に関して企業等が求めている最新の実用化情報とその活用情報等を提供する場としても、前記成果発表会・特別講演会を開催するよう努める。

また、関連団体「ヒューマンロボットコンソーシアム」と密接な連携を図り、ロボットシンポジウムの開催等により次世代人工知能・ロボット産業の創出・振興、人工知能の研究促進を図る。

(3) その他講演会・シンポジウム・セミナー等の開催等

地方自治体及び関連団体等と連携・協力を図ることにより、講演会、シンポジウム、セミナー等の開催について、検討を進める。

3. 人工知能に関する情報の収集・提供（定款 第4条第1項第4号）

(1) 機関誌及びホームページ等による情報提供

人工知能及び同関連技術分野に関する情報の収集を行うとともに、財団活動及び人工知能及び同関連技術等に関する情報を機関誌「AI Information」及びホームページ等により、情報提供を行う。

- ・機関紙「AI Information」の発行
- ・ホームページ (<http://www.airpf.or.jp>) による情報提供・発信

(2) 人工知能関係事業等との連携による財団の社会的認知度向上等

平成29年度に名古屋において開催される人工知能関係事業の「一般社団法人人工知能学会第31回全国大会」及び「ロボカップ2017名古屋世界大会」の場等を活用して、当財団の認知度の向上を図り、更なる人工知能の研究振興に寄与するため、研究助成事業の周知とともに、昨年度実施の「既交付助成研究の成果等調査」結果を取りまとめ、それらによる広報活動を行う。

(参考)

- 一般社団法人人工知能学会 第31回全国大会の概要
 - ①会場 愛知県産業労働センター（ウインクあいち）
 - ②開催期間 平成29年5月23日（火）～26日（金）
 - ③主催 一般社団法人人工知能学会〔会長 山田 誠二（国立情報学研究所 教授 総合研究大学院大学 情報学専攻 教授、東京工業大学大学院 連携教授）〕
 - ④参加者数 約1,500人（想定）
 - ⑤内容 全体会議、16の分科会、企業展示、交流会
- 「ロボカップ2017名古屋世界大会」の概要
 - ①会場 名古屋市国際展示場及びテバオーシャンアリーナ
 - ②開催期間 平成29年7月25日（火）～31日（月）
 - ③想定参加者数 約3,000人（40カ国）
 - ④想定入場者数 10万人以上

4. 人工知能に関する相談・指導事業（定款 第4条第1項第5号）

公益財団法人への移行を契機とした新たな取り組みとして、設立当初から実施している「研究助成事業」の継続的实施に加えて、更なる研究促進支援のため、「人工知能の研究に関する相談・指導事業」の推進について、昨年度は、その実施計画を11月の理事会で承認を得て、地元の大学、試験研究機関、行政等を中心とした研究開発・事業化等支援協力機関に対して、個別に連携・協力依頼を行い、基礎的なネットワークを構築し、相談等内容に応じた関係機関への橋渡しをする事業の取り組みを始めた。

本年度は、当該事業の試行的実施をすることとし、その実施等を通じて、広域的な支援協力機関ネットワークづくりとともに、人工知能技術全般の一層の技術向上及び普及を促進することを目的とした企業、団体、政府等からなる団体との最新技術動向の共有、意見交換を行うなどして、より実効性のある体制づくりに努める。

5. 公益財団法人移行後の財団運営及び人工知能研究振興等のための事業のあり方について

財団法人は、「出捐者から公的に付託された資金によりその設立目的の達成のため、社会全般を受益者として、継続的に公益目的事業を適正かつより効率的、効果的に行う。」ことが求められている。

こうした中で、財団を取り巻く環境変化とニーズに対応した財団事業のあり方とともに、昨年度実施の既交付助成研究成果等のフォローアップ及び研究助成制度に対する意見・要望等を内容とした「アンケート調査」の結果等に基づき、同助成制度の運用改善等について、引き続き業務運営委員会において検討をお願いすることとする。